

日本柔道を日本化する研究
—海外スタイルが日本に及ぼす影響を受けて—

藤本 祐哉 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 村田 正夫

キーワード：日本柔道，海外スタイル，日本化

1. 緒言

現在，柔道は200カ国の国と地域が国際柔道連盟に加盟しており，各国で独自のスタイルを形成し発展を遂げている。

しかし，一方では日本柔道の技術特性が退化しつつあり，海外の柔道に変化してきている。日本柔道の特性は，釣り手と引き手を持ち正しく組み，間合いを取って自分と相手の身体をコントロールして一本を取ることを心情としている。これに対し海外特有の柔道は，相手の背部を持ち引き付けるパワースタイルや下半身を狙ったレスリングスタイル（双手刈・朽木倒など）が代表的である。日本人がこれを真似ると本来の能力を発揮することできず，力と力を比べあった単純な試合になってしまい，海外選手に勝つことが厳しくなっている。

また，2013年秋には新たなルール改正が採用され，日本柔道の特性を重視したルール内容となり，今後より一層日本の選手は特性を活かした理に適った柔道を回帰することが必要になってくる。

本研究では，海外スタイルが日本柔道にどのような影響を及ぼしているかを検証し，今後の日本柔道の課題と展望を考察することを目的とする。

2. 研究方法

研究方法は，海外スタイルの特徴と日本柔道の現状についてアンケート調査を実施した。

調査対象者は，全国大会における上位実業団および大学の選手を対象とする。（2社・5校）

また，海外スタイルが日本柔道にどのような影響を及ぼしているかを主要国内大会・国際大会について映像分析も同時に行った。

3. 結果と考察

アンケート調査では，海外スタイルの影響はあまり見られなかった。しかし，映像分析の結果から海外スタイルの影響を受けている選手が多く敗戦している一方，日本柔道の特性を活かした選手が国内大会・国際大会を制していた。

この結果から，日本人に合った柔道を取り戻し，理に適った柔道に回帰することが必要であることが分かった。

4. まとめ

本研究では，海外スタイルが日本柔道に影響を及ぼしており，日本人に合った柔道をしなくてはならない。日本柔道の特性である釣り手と引き手を持ち正しく組み，間合いを取って自分と相手の身体をコントロールして一本をとること心情とした柔道に回帰することが今後の日本柔道の課題である。

5. 引用・参考文献

- 1) 村田正夫（2012，11月）「柔道レベルアップ教本[連絡技編]」 ベースボール・マガジン社
- 2) 公益財団法人 全日本柔道連盟
<http://www.judo.or.jp/>